

気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや6年。
オーナーコピーライターのひとりこと。

ウフの我が家

年の初めになると、初めてス
ウェーデンハウスのモデルハウスに
足を踏み入れた時のことを思い出
す。雪の舞う、寒い日だった。

実を言うと、ある広告代理店か
らスウェーデンハウスのコピーを書
いてくれと頼まれたのがきっかけ
だつた。そして「実際に見てきて
欲しい」と言われ、仕方なく夫と
一緒に出掛けたのだった。

しかし何にせよ、それがスウェー
デンハウスとの初対面。ほつとする
暖かさと気持ちの良い空気、パイ
ンのぬくもり、印象的な窓…ああ、
こんな家があるのだと、驚いたの
を覚えている。

失敗したのは、折角だからと隣
のモデルハウスにも立ち寄ったこと

だつた。

翌日から、「その後どうでしょ
う」「ご検討いただけましたか」と
矢のような勢いで電話がかかり始
めた。家なんて大きな買い物、そ
う簡単に決められません（まして
や冷やかしだったのだし）。当分は
具体的に動かないと言つただろう
が！——なんてガツガツしてくるん
だ：いい加減に嫌気がさした。

が、スウェーデンハウスの営業は
違つた。一度お礼の電話が来ただけ
だ。こちらの状況をちゃんと聞い
ていてくれたことがよく分かる。

そして、実際に家を建てるま

での5年余り、彼はつかず離れず
(途中で遠くの営業所に異動した
にもかかわらず)、「THE SWEDEN
HOUSE」を届けてくれたり、イベ
ントに誘つてくれたりしながら、
私たちの側にいてくれた。いつ家
を建てるかわからない私たちなん
かのために：いつしか夫は「いつか
家を買うなら、絶対にあの人から
買う」と言い切つていた。

何のために家を売るのか——自
分の成績のため？会社のため？お
客さんのため？大切な部分を履き
違えない、「スウェーデンハウス氣
質」が好きだ。家そのものに似て、
上品であたたかい。うーん、しあ
わせだなあ、我が家は。

家を建ててから6年、今でも彼
は折りに触れて我が家に顔を出し
てくれる。誠実で優しく、しつか
り者の岩田さん：あなたと一緒に
家を建てることができて、本当に
良かったです。末永く、どうぞよ
ろしくお願ひします。



『営業力』

気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや6年。
オーナーコピーライターのひとりごと。

ウフの我が家

スウェーデンに行つたことはない。でも、ものすごく行つてみたい。娘がもう少し大きくなつたら…その時が来たら、どこへ行こうか、何を見ようか、何を食べようか…夢は膨らむ一方だ。

北欧・森と湖・福祉大国、ニルスにビッピ…。私にとつてスウェーデンのイメージは、当初その程度のものだつた。

「スウェーデンハウス? 輸入住宅か?」と外資系のような社名に困惑しながらモデルハウスに入つてみると、実はバリバリの日本企業だった。「なんだ」と、少々肩すかしをくらつたような気分になつたが、実はその事実にこそ、快適な毎日への鍵が隠されていたのだ。



『私の瑞国事情』

スウェーデンハウスは、スウェー

デンの住宅をそのまま日本に持つ

てきてるわけではない。「快適

に、長く住み継ぐ」というスウェー

デンの住思想を土台にして、北欧

で育つた「恐ろしく目の詰まつた

木材」を使用して、「日本で暮ら

すための家」を作つてゐる。家を

建てる時に何人かの人から「気候

や風土が違う国の家なんて――こ

あ、我が家は。

「スウェーデンには、まだ行つたことはない。でも、必ず行くと思う。きっと、初めてなのに懐かしい。梅雨の湿氣も、台風も、土地の狭さも、家族の在り方も、近くつて、言葉も通じないのに寛げる、そんな旅になるのだろう。今からとても楽しみだ。

上で、「いちばんの快適」を目指して作られている、日本人による、日本人のための、スウェーデンハウスなのだ。

住めば住むほど心地よく、安心で、愛着が湧く我が家。当然スウェーデンという国にもどんどん興味が湧いてくる。子育て、教育、環境、食、デザイン…スウェーデンと聞くだけで親近感が湧き、一歩踏み込んで知ろうとする自分がいる。そして、どんな分野においても「学ぶべきもの」のとても多い国であることに気づかされ、そんな国が、我が家が生まれ故郷であることに、私は少なからず誇りを感じる。うーん、しあわせだな

あ、我が家は。

スウェーデンには、まだ行つたことはない。でも、必ず行くと思う。きっと、初めてなのに懐かしい。梅雨の湿氣も、台風も、土地の狭さも、家族の在り方も、近くつて、言葉も通じないのに寛げる、そんな旅になるのだろう。今からとても楽しみだ。

気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや7年。
オーナーコピーライターのひとりこと。

ウフの我が家

「結婚はゴールではなく、スタートだ」とよく言われるよう、「夢のマイホームも、建ててからがスタートですよ」と私は言いたい。全てのハッピーエンドには「続き」があることを、忘れてはいけない。家は、実際暮らし始めると案外いろいろなことが気になつたり、疑問が出てきたりする。些細なことでも、毎日暮らしている身には一大事。そんな時、気軽に問い合わせができたり、快く対応してくれる体制が整っていることが、実はハウスメーカー選びの重要なポイントだつたりする。家を引き渡したらそれでおしまい。その後どう暮らそうが、何か不具合がある

うが、関係ありませんんというような施工業者も、残念ながら存在するのが現実らしく、実際に友人からそんな愚痴を聞かされていた我が家は、その点でも激しく吟味して、スウェーデンハウスを選んだのだつた。

特に惚れ込んでいたのが、ヒュースドクトル50（50年間無料定期検診システム）だ。引き渡し後なんと

50年！もの間、スウェーデンハウスは我が家の検診をしてくれるとい

うのだ。C値測定同様「どうして

いるのかかりつけ医」がまたやって来る。7歳になつた我が家の健康状態はどうだろう。しっかりと

ここまで？」と思つてしまふくらいの至れり尽くせりではないか。

自分のことを良く知つてゐるかかりつけの医者が、わざわざ定期的に「どうですか？」と尋ねてくれて、健康状態を調べ、暮らし方のアドバイスなどをしてくれると想像してみて欲しい。しかも無料で。こんな安心、そうそつあるもんじやない。

引き渡し後3ヶ月、6ヶ月、1年、2年、4年…彼らは本当にやって来た。その都度聞きたいことがたくさんあり、教わることがあり、おかげで快適な日々は今に至るまで全く変わることがない。ハッピーエンドの続きは、「ずっとハッピー」だつたのだ。うーん、しあわせだなあ、我が家は。

もうじき7年点検だ。信頼している「かかりつけ医」がまたやって来る。7歳になつた我が家健康状態はどうだろう。しっかりとチェックしてもらおうと思う。



『うちのかかりつけ』

気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや7年。
オーナーコピーライターのひとりごと。

ウフフの我が家



「ウフフのキッチン」

料理が好きだ。作るのが好き
だし食べるのも好きだ。大好きな
人たちが無防備な顔をして食べる
のを見るのが好きだ。「美味しい」
という言葉が聞こえてくる、その
瞬間が大好きだ。

料理上手の母に育てられたせいか
私は食に関する思い出がたくさん
ある。台所の手伝い、つまみ

食い…たまに「お客様」が来る
日にはいつもどちらと違った献
立が用意され、何となくワクワク
と嬉しかったものだ。

夏こそーの食事を楽しまなくつ
ちや。

せだなあ、我が家は。

結婚して、子どもを授かり…ど
こかで「母のよくな母に」と願つ
ていたように思う。料理の腕前は
逆立ちをしてもかなわないけれど、
私も娘に同じような思い出が
残せるといいな。母がそうであつ
たように、私も、どんなときでも、
「美味しい！」を聞くために、台
所に立ち続けたいと思うのだ。

格段に違うのだ。隣りのリビング
と大差ない涼しさの中、私は天ふ
らをあげたり、餃子を作ったり、
ケーキを焼いたりとやりたい放
題。しつかり食べる——それこそ
が夏バテ防止の第一歩だ。

娘が手伝いたいと言う時は、ど
うぞどうぞとお願いをする。火が
ないから、炒めたり混ぜたりと、
コンロ周りの仕事にも参加して
もらえる。小さな娘と一緒に立つ
夏休みの台所：子育ての苦労も、
日々のストレスも、帳消しになる
程嬉しい時間だ。うーん、しあわ
せだなあ、我が家は。

そんな私の台所は春夏秋冬フ
ル回転。台所仕事が億劫になる
はずの夏でも変わらない。猛暑だ
ら、カレー、枝豆、どうもろこし
まり方が、ガスレンジのそれとは

気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや7年。
オーナーコピーライターのひとりごと。

ウフフの我が家

先日、我が家に一大事が起つ
た。夫が転勤になつたのだ。サ
ラリーマンの妻として、転勤の覚
悟くらいはできていたはずだつた
が、蓋を開けてみると隣接する県
への異動というなんとも中途半端
な距離だつたため、単身赴任か、
家族で引っ越すか、はたまた新幹
線の始発に乗つて通うか…我が家
はモメにモメた。

新しい土地での暮らしは変化に
富み、刺激的だろう。転校の経験
も、娘には無駄ではないはずだ。
かつては引越し魔として名を馳せ
た私なのだし…いつそ家族で引つ
越すか?

しかし、私にも仕事がある。友
達と離れるのだってうんと寂し
い。いや、イヤだ。娘もイヤだと
言つてはいる。第一、この家をどう
するんだ?「ウフフの我が家」を
どうしてくれる!

「案外さ、単身赴任もいいかも
よ」「会社からは一ヶ月に一度帰る
交通費しか出ないよ」「じゃあ、一ヶ
月に一度にしなよ」…しまつ
た…すきま風の吹かないはずのス
ウェーデンハウスに、一瞬すきま
風が吹いた。気がした:(笑)。

結局、夫はスウェーデンハウス
を離れることを拒んだ。毎朝5
時半起きだろうが、帰りが遅く

なろうが、この家で目覚め、この
家に帰りたいと言う。自分が家
にいない時間、家族を守る家はス
ウェーデンハウスであつて欲しい
と言う。

私はもう何も言えず、夫の出し
た結論を受け止めた。

この家に、しがみつくつもりは
ない。通えない距離への転勤であ
れば、あつさり引越しをしただろ
う。ここで暮らしてきた中で、本
当の快適とは何かを知ることがで
きた。だから、動く先でそれなり
の快適(ここまで快適は望めな
いだろ?)を探すこと、そう
困難ではないだろう。この家だつ
て、価値の分かる人が住んでくれ
るに違いない。

けれど、とりあえず、我が家
引越しはなくなつた。毎朝始発の
新幹線に乗る夫に感謝をしながら、今一度、この家のありがたさ
を噛み締めている毎日だ。うーん、
しあわせだなあ、我が家は。

『まさかの転勤』



ウラフの我家

オーナー「ピリライタ」のひとりごと。
気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや7年。

「なつちやんちには煙突がないよ。サンタ・クロースが入れないよ！」…クリスマスが近づくと、子どもどいうのはいろいろな心配

を通り抜けようとするサンタの姿を想像し、ちょっと大変なんじやないかしらと、くすつと笑った。

トをもらえるほどいい子だつたの
だろうか、欲しいものを持つて来
てくれなかつたらどうしよう、雨

てくれなかつたらどうしよう、雨が降つてもソリは飛ぶのだろうか、サンタが風邪をひいてしまつ

うものは、常に小さな不安を横に座らせて いるらしい。「大丈夫だよ。煙突がない家ではね、壁をスツと通り抜けてくるんだよ」——そ う答えながら、私は分厚い断熱材の入ったスウェーデンハウスの壁

きっとマニユアルか何かがあるんだろう）。根が素直なので、言われる度にまんまと動搖していた私はだつたが、最終的には「この断熱材がなければ、どの家を選んでも一緒なのではないか」と思い、スウェーデンハウスを選んだ。



『サンタもびっくり』

エアコンの24時間連続運転で得た快適と省エネ具合といつたら、それはもう、「グラボー、断熱材！」だつた。冬の暖かさについては、今更言うまでもない。最近あまりに心地良いと、見えないはずの断熱材が、壁を透かして見えるよう

しかしこの断熱材、次世代省エネ基準を大きくクリアするクオリティなのだそうだが、世の中の「基準」がスウェーデンハウスの快適に追いつくのはいつになるんだろう。次世代? 次々世代? ——大切なのは「今」だろう。私は「今」、快適に過ごしたいし、実際快適に過ごさせてもらっている。うーん、あわせだなあ、我が家は。

しあわせたなあ 我が家の
サンタ・クロースよ、気合いを入れ
て体当たりしてくるがいい。ど
んなに寒いクリスマス・イブにな
ろうとも、分厚い壁の先には、世
にも暖かな空間が待つている。な
んならちよつと一休みしていく?